

令和6年度（2024年度）生涯学習関連事業評価について

1 生涯学習プランの進捗と管理

プランに掲げる生涯学習施策を推進するには、教育部門だけではなく、福祉、保健、医療、子ども、環境、産業振興など、さまざまな分野の計画・事業実施所管と連携し、学習、啓発、市民協働の取組を行っていく必要があります。本市では、庁内に「生涯学習推進会議」を設置し、全庁的な体制のもとにプランを推進し、本市における生涯学習社会の実現を目指します。

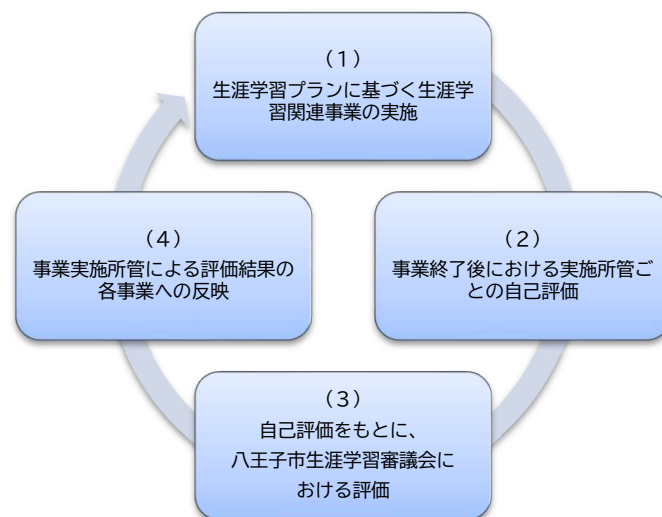
また、市民委員や学識経験者で構成する「生涯学習審議会」を開催し、市民感覚を反映した生涯学習の振興に関する施策の審議、生涯学習に関する施策及び事業の検証と評価を行っています。

2 事業の点検と評価

生涯学習関連事業評価は、生涯学習プランの示す「施策の展開」が着実に実現されているかを年度ごとに点検するものであり、全庁の生涯学習関連事業の発展に活用するための見直し・改善のプロセスとして実施します。

また、社会情勢・市民ニーズの変化、国や都の動向に対応しながら、必要に応じて事業の実施内容を見直します。

事業の点検は、市が実施する全事業のうち生涯学習プランに掲載の取組を抽出して行います。



3 進捗状況をはかる指標

「生涯学習プラン」の推進にあたり、基本施策ごとに次のとおり指標を設定します。この指標を目安として施策の進捗状況をはかります。

基本施策1 誰もが学べる環境づくり ～まなぶ～		
●指標1 生涯学習活動をしている市民の割合	平成30年度（2018年度） 現状値：52.2%	目標：毎年度、 前年度を上回る
○生涯学習の充実度をはかる指標です。より多くの市民が具体的な生涯学習活動を行っていることを目標とします。		
基本施策2 学びから広がる地域づくり ～いかす・つながる～		
●指標2 生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合	平成30年度（2018年度） 現状値：8.9%	目標：毎年度、 前年度を上回る
○生涯学習の成果を地域への還元度をはかる指標です。より多くの市民が、学びの成果をまちづくりの中で活かし、地域や社会の中で活動することを目指します。		
基本施策3 学びを支える基盤づくり		
●指標3 SNSを活用した講座・イベント情報を発信し、フェイスブック等の閲覧数	平成30年度（2018年度） 現状値：22,362件	目標：毎年度、 前年度を上回る
○生涯学習情報が市民に提供されている状況をはかる指標です。情報発信数とともに閲覧数の増加を目指し、市民の生涯学習活動参加を促します。		

4 令和6年度（2024年度）の進捗状況をはかる指標

指標1 生涯学習活動をしている市民の割合

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
割合	52.2%	57.9%	56.9%	55.7%	55.1%	69.8%	77.5%
増減		0.057	▲ 0.010	▲ 0.012	▲ 0.006	0.147	0.077

指標2 生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
割合	8.9%	8.6%	7.1%	6.1%	6.3%	6.8%	8.1%
増減		▲ 0.003	▲ 0.015	▲ 0.010	0.002	0.005	0.013

指標3 SNSを活用した講座・イベント情報を発信し、フェイスブック・X(旧:Twitter)等の閲覧数

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
閲覧数	22,362	413,504	537,056	527,655	379,636	510,647	—※
増減		391,142	123,552	-9,401	-148,019	131,011	—

※令和6年度(2024年)6月のX(旧:Twitter)の仕様変更により、集計できず。

5 令和6年度（2024年度）の所管評価の概要

令和6年度（2024年度）は、生涯学習プラン（令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度））における5年間の計画期間のうち5年目の位置付けとなります。

所管評価

評 価	説 明	令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
		事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率
S	目標以上の成果があった	0件	0%	1件	1%	1件	1%	0件	0%	4件	3%
A	計画・目標どおりに達成できた	9件	7%	74件	58%	78件	61%	96件	76%	106件	86%
B	計画・目標の一部が達成できなかった	44件	34%	28件	22%	36件	28%	25件	20%	10件	8%
C	達成できず困難な課題がある	16件	12%	2件	1%	2件	2%	2件	2%	-	-
評価なし	中止などにより評価なし	60件	47%	23件	18%	10件	8%	3件	2%	3件	3%
合 計(プラン掲載事業)		129件	100%	128件	100%	127件	100%	126件	100%	123件	100%

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
01	子どもの頃から始める生涯の学び	12	001	子どもたちが体験できる機会の充実	5
			002	子どもたちに向けた各種講座・教室の充実	5
			003	青少年の海外交流・都市間交流の実施	2
02	人生100年時代を見据えた多彩な学習機会の充実	20	004	人生を豊かにする多様な講座の提供	3
			005	郷土の歴史や文化財に親しむ	3
			006	文化芸術に触れる	2
			007	読書のまち八王子の推進	7
			008	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3
			009	社会人の学び直しの支援(リカレント教育)	2
03	共生社会実現に向けた生涯学習の支援	13	010	障害のある人の生涯にわたる多様な学びの支援	6
			011	健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	5
			012	性や国籍にかかわらず社会参画につながる学び	2

(ア) 目指す姿

- a 子どもたちが家庭の環境によらず、多様な体験活動に参加できている。
- b 誰もが、いつでも、どこでも、学べる環境で、生涯にわたり多様な学びに取り組んでいる。
- c みんながともに学び、みんなが地域の一員として支えあいながら生涯学習活動に取り組んでいる。

(イ) 施策の方向性

- a 子どもが大人とともに学びあう機会を充実します。
- b 家庭環境によらず、全ての子どもたちが体験活動に参加できるように取り組みます。
- c 学びのきっかけづくりや、いつでも学び直せるなど、多様な市民ニーズに対応した学習環境づくりを進めます。
- d 共生社会の実現に向けた学習機会を充実します。

(ウ) 令和6年度(2024年度) 取組概要

・施策の展開 01「子どもの頃から始める生涯の学び」

季節ごとの自然体験を提供する事業である「1. 自然体験・自然観察会」は、目標値を上回る 114 名が参加し、アンケートも「楽しかった」「次回も参加希望」との回答割合がほぼ 100%と高評価を得られた。

海外の青少年と異文化・外国語交流を行う事業である「13. 青少年海外交流」は、高雄市の中学校で発表会をし、台北市の文化施設等の見学を行い、参加者アンケートで高評価を受けた。

・施策の展開 02「人生 100 年時代を見据えた多彩な学習機会の充実」

郷土の歴史や、文化の関心を高める講座及び体験学習を実施する事業である「18. 郷土資料館講座・体験学習」は、「八王子空襲の体験談を聞く」等の講座や、「繭と生糸の魅力を発見！」等のワークショップを実施し、参加者 504 名となり、目標値を大きく上回った。

公園で図書閲覧スペースの設置や、各種イベントを開催する事業である「28. 新たな読書空間“パークライブラリー”」は、中央図書館・南大沢図書館は目標回数を実施でき、来園者からも好評を得ることが出来た。

・施策の展開 03「共生社会実現に向けた生涯学習の支援」

高齢者入居施設に図書の出張・団体貸出する事業である「44. 高齢者施設読書活動支援」は、出張おはなし会について、入居者からの反応が良く、リクエストも多いこともあり、目標値の施設数・貸出数とほぼ同数の実績値となった。

外国文化への理解や外国人との交流を深める講座を実施する事業である「49. 国際理解講座」は、事業全体では講座実施数・参加者数は前年度を上回り、満足度 91.8%と高評価を得た。講座実施例としてはペルー料理講座があり、異文化交流の大切さや、日本と海外文化の違いを学べたことで、参加者から好評を得ている。

(工) 令和6年度(2024年度)生涯学習審議会評価

- ▶生涯学習事業の周知手法として、SNS やアプリが活用されることもあるが、音声読み上げ機能や多言語切替機能など、アクセシビリティに関する機能の有無には差が見られる。共生社会の実現に向けた学習機会を充実させるためにも、こうした機能の充実と統一を積極的に推進してほしい。
- ▶市内小学校の放課後子ども教室に講師を派遣して多世代交流を図りながら多様な体験型講座を実施する「2.出張体験講座」の15回の実施は高く評価できる。今後は地域住民の協力やコーディネーター会による中間支援の活用、各講座講師と同教室実施団体が連携して講座開催を企画するなど、柔軟な運営体制の構築を図り、実施内容や回数のさらなる充実に繋げてほしい。
- ▶乳幼児期から発達段階に応じた読書支援を行い、読書習慣の啓発を図る「23.乳幼児の読書活動支援」は、令和7年度からの乳幼児健診の個別受診化に伴い、ブックスタートの実施方法の見直しが必要となり、目標値の引き下げが検討されている。事業の目的や意義は引き続き重要であり、制度変更後も効果的な推進が求められることから、実施体制の再構築を含めた対応が望まれる。
- ▶「26.八王子千人塾」や「46.ボランティア講師による教室」は、高齢者に対して学びや交流、生きがいづくりの機会を提供しており、高齢者の活躍支援の観点からも意義深く、高く評価できる。特に「26.八王子千人塾」では、受講終了後も自主グループを形成し、調べ学習を通じて互いに学びを深めている点が特筆できる。こうした主体的な学びの姿勢を支える環境づくりのさらなる発展を期待したい。
- ▶「36. パソコン・タブレット教室」などの、障害のある人に対する多様な生涯学習事業を実施している点は評価できる。八王子市の豊富な地域資源（社会福祉法人、NPO 法人、企業、大学等）を活用し、行政が主導で関係機関と連携を図りながら、障害のある人に向けた学びの場のさらなる創出と実施数増加を期待したい。
- ▶「49. 国際理解講座」は、共生社会の実現に向けて重要な事業である。外国人との交流を通じて多文化共生を推進し、外国人にも開かれた地域づくりへと繋がることを期待する。

イ 基本施策2 学びから広がる地域づくり ～いかす・つながる～

生涯学習関連事業 57 件

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
04	学校、家庭、地域で支える子どもの育ち	11	013	地域全体で子どもの育ちを支える	4
			014	学校と地域との連携・協働による生涯学習活動	4
			015	子育て世代がつながるきっかけづくり	3
05	地域を豊かにする学びの還元	18	016	地域での活動のきっかけづくり	5
			017	地域で活躍するボランティアの養成・支援	8
			018	地域の課題解決につながる学びの提供	5
06	学びをいかし、みんながつながる環境の充実	15	019	学習成果の発表と学びの広がり	10
			020	日頃の成果の発揮と学ぶ意欲の醸成	5
07	高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実	13	021	高校生・大学生等と地域がつながる、地域でいかす	9
			022	若者の社会的自立に向けた、学びによる支援	4

(ア) 目指す姿

- a 全ての子どもたちの健やかな育ちを地域で支えている。
- b 学びが個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされ、人と人との交流が新たな学びにつながり、学習成果が循環している。
- c 大学生等が地域で活躍できる機会が充実し、大学生等と地域が高めあって、協働している。

(イ) 施策の方向性

- a 地域で子どもと子育て家庭を応援できるよう、家庭教育の啓発を図ります。
- b 子育てについて悩みがある保護者や、保護者同士、学校の先生との接し方について分からないことを相談する機会をつくれます。
- c より多くの人が保護者を支援する活動ができるよう、保護者同士や地域をつなぐ人材育成を図ります。
- d 市民団体等との協働によるイベントの実施を通じ、市民が学習成果を発表する機会や、地域で活躍できる機会を拡充させ、市民交流を促します。
- e 生涯学習を通じて得た知識や経験が、社会や地域での活動に活かされるよう、ボランティアや指導者の育成、イベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援します。
- f 学園都市である本市の強みを活かし、大学・短期大学・高等専門学校と学生、地域の人とのつながりを促します。

(ウ) 令和6年度(2024年度) 取組概要

・施策の展開 04「学校、家庭、地域で支える子どもの育ち」

地域と連携し、平日放課後や週末等に小学校施設で子どもの安全な居場所と活動の場を提供する事業である「56.放課後子ども教室」は、前年度比で週5日実施校数が3校増加して計41校となり、延べ参加者数は1,024,837人となった。また、登校前に居場所・活動の場を提供する「朝の子ども教室」については、前年度比で5校増加して9校で実施し、子育て家庭のニーズに応じて対応した。

乳幼児と保護者の交流や相談の場を提供する事業である「58.子育てひろば（親子つどいの広場など）」は、プレママ・プレパパ対象の子育て講座一覧のチラシを作成し、各広場のおたよりと合わせて、利用者支援事業活動でも周知し、目標値を上回る講座実施数2,448回となった。

・施策の展開 05「地域を豊かにする学びの還元」

関連団体・ボランティアと図書館サービス拡充を連携し、育成・スキルアップを支援する事業である「70.図書館ボランティア等の連携・支援」は、図書館事業に13～24歳頃の若年層を参加させ、ボランティア意識醸成に繋げ、実施回数や参加者数の目標値を上回る実績値となった。

要約筆記者の養成と障害理解を目的とした講習会である「72.要約筆記者養成講習会」は、目標値を上回る受講者数(11人)であり、さらに若い年齢層が多く受講しており、市の喫緊の課題である要約筆記者の養成について寄与した。

・施策の展開 06「学びをいかし、みんながつながる環境の充実」

作品展示や音楽発表を通じて、市民の生涯学習活動のきっかけ作りと交流を提供する事業である「79.生涯学習フェスティバル」は、参加団体定数以上の応募があったため20団体に定数を増やし、延べ来場者数2,726人で目標値を上回った。

日本最大級の公道駅伝として、八王子の魅力発信と地域活性化を図る事業である「94.全関東八王子夢街道駅伝競走大会」は、スタート時間の見直し・申込方法の簡素化等で大会参加の促進に繋がり、参加者数2,008人で目標値を上回った。

・施策の展開 07「高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実」

「95.大学生等が参画する生涯学習センター講座の実施」は東京工科大学と共催で実施し、学生が子どもたちにプログラミング体験を提供し、参加者満足度100%となった。

高校生が運営をし、青少年の音楽活動の成果発表・参画機会を提供する事業である「102.八王子市内高等学校吹奏楽フェスティバル」は前年度同様に企業の協力で特別番組を放映し、来場者数2,300名で目標値を上回った。

(工) 令和6年度(2024年度)生涯学習審議会評価

- ▶地域ボランティアを人材バンクに登録し、学校と連携して教育活動を支援し、子どもを育む環境を整備する「54. 教育人材バンクへのボランティア希望者の登録」は、学校の多様なニーズに応える重要な仕組みである。人材バンクの登録者数の伸び悩みの課題については、学校が求める人材像をより明確に示し、様々な広報ツールや地域ネットワークを活用することで、効果的な人材確保につなげてほしい。
- ▶「56. 放課後子ども教室」については、週5日実施校が令和6年度に38校から41校へと増加し、目標を上回る成果を上げている。さらに、全国的にも先進的な取組である「朝の子ども教室」は、子育て支援や少子化対策の観点からも重要な施策であり、高く評価できる。
- ▶「62. はちおうじ志民塾」を始めとした、多様な市民活動の機会を提供する事業は、学生やシニアなどの幅広い年齢層の市民にとって地域参加のきっかけとなっている。今後もこうした取組を継続・拡充し、市民の地域活動への意識の向上と機会の創出を図ってほしい。
- ▶「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」について、令和6年度は8.1%で、前年度比1.3%上昇している。学びが個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされることで学習成果が循環するよう、引き続き学校や図書館ボランティア等の多様な社会参加の場を提供するなど、事業の継続と改善を推進してほしい。

ウ 基本施策3 学びを支える基盤づくり

生涯学習関連事業 21 件

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
08	学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供	10	023	学びへの新たな参加を促す取組	1
			024	生涯学習の相談体制の充実	2
			025	生涯学習機会の情報の発信	7
09	生涯学習環境の整備	11	026	生涯学習環境の充実と活動の場の提供	7
			027	誰もが生涯学習へ参加しやすい環境づくり	3
			028	ICTを活用した生涯学習機会の充実	1

(ア) 目指す姿

- 生涯学習情報を広報紙・インターネットなどの複数の媒体で、分かりやすく提供し、市民の生涯学習活動の充実につながっている。
- 生涯学習施設が、市民が気軽に集い、つながれる、学びのきっかけづくりの場として機能している。

(イ) 施策の方向性

- 生涯学習を始めたい市民、学習をより深めたい市民、サークル活動やボランティア活動など人とのつながりを求める市民が、必要とする生涯学習情報を分かりやすく入手できるよう、情報提供の環境を充実します。
- 市民が気軽に相談できる環境のほか、専門的な質問に対して、適切な案内と助言を行うことができる人材を養成するなど、相談体制を充実します。
- 身近な場所で、生涯学習活動がしやすいように環境整備を進めます。

(ウ) 令和6年度(2024年度) 取組概要

・施策の展開 08「学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供」

学習支援委員が合同講座を実施し、市民の生涯学習活動のきっかけづくりを提供する事業である「108.生涯学習しえんねっと講座」は、各委員の得意分野である「アロマセラピー」・「ChatAI」等をテーマとした講座を実施し、前年度の講座数（7講座）・参加者数（32名）を上回り、参加者満足度 82%と高評価を得た。

生涯学習の相談体制や情報発信についても、生涯学習情報の提供や学習要望に対して助言する「109.生涯学習相談」、夏休み中の小中学生向けのイベント等を情報提供する「112.イベントカレンダー」を前年度に引き続き実施し、充実に努めた。

・施策の展開 09「生涯学習環境の整備」

学習支援課について、生涯学習情報や学習機会の提供、交流・発表の場である「119.生涯学習センター」で、子どもたちに社会体験・伝統文化体験等を提供する「7.青少年講座」、シニア世代向けに PC・スマホ等の ICT 講座や健康維持関連のプログラムを提供する「43.ゆうゆうシニア講座」を実施した。また、前述の「79.生涯学習フェスティバル」や、40歳以下の団体・個人に音楽活動のステージを提供する「106.クリエイトライブステージ」といったイベントの他、「120.学習室の貸し出し」・「121.フリースペース」を実施し、令和6年度（2024年度）目標値を上回る来場者数（200,511人）となった。

図書館課について、中央図書館の視聴覚ホール未使用時に実施する事業である「122.自習スペースの開放」は、開館日の約 91%を自習室として開放し、土日等の混雑時には他の空き会議室を転用した。また、夏休み期間等に若年層向けの自習スペースをフリースペースに設け、自由に使える空間づくりに取り組み、前年度とほぼ同人数の 13,928 人が来館した。電子書籍の拡充やホームページでの情報発信等、非来館型サービスを充実させる事業である「129. ICT の活用」は、電子書籍サービスを継続しつつ、学校の朝読書等のニーズを読み放題パックの拡充で応え、前年度とほぼ同数の実績値となった。

(工) 令和6年度(2024年度)生涯学習審議会評価

- ▶八王子市民活動支援センターは、交通の利便性に優れた立地にあり、公益的な活動を行う登録団体が無料で利用できる会議室を備え、フリースペースは誰でも利用ができ、多くの情報を得られる市民が身近に利用しやすい施設である。団体が行う講座の開催など、学びの場としての活用事例も多く、新たな活動のきっかけとなっている。また、同センターが運営する「114. はちコミねっと」は公益的な活動をする生涯学習団体が登録すれば、無料でネット上に情報発信が可能なため、さらなる活用促進に向けた取組を期待したい。
- ▶地区会館は地域の福祉・文化・交流に資する施設として原則無料で使用可能である。地域住民のコミュニティ活性化のため、生涯学習の場としてもぜひ活用を促進してほしい。
- ▶図書館は学びのきっかけづくりの拠点として、施設の利用環境の向上や、施設外の学びの基盤を整備する役割が求められる。「121. 自習スペースの開放」は、自習スペースを利用する若年層の声を反映させ、自習スペースの貸出事業を充実させることが重要である。「29. 非来館型サービスの拡充」・「129. ICT の活用」は、電子書籍の拡充など、図書館施設にとどまらない取組を模索してほしい。
- ▶具体的な施策 025 番「生涯学習機会の情報発信」について、公式 LINE や SNS など多様な媒体の活用が有効であり、生活の節目での情報提供や、情報が届く仕組みづくりが求められる。
- ▶「124. 八王子駅南口集いの拠点整備」について、桑都の杜の「歴史郷土ミュージアム」や「憩いライブラリ」などを、生涯学習の場として市民へ積極的に発信し、活用促進を図ってほしい。

(ア) 令和６年度(2024 年度) 生涯学習審議会評価

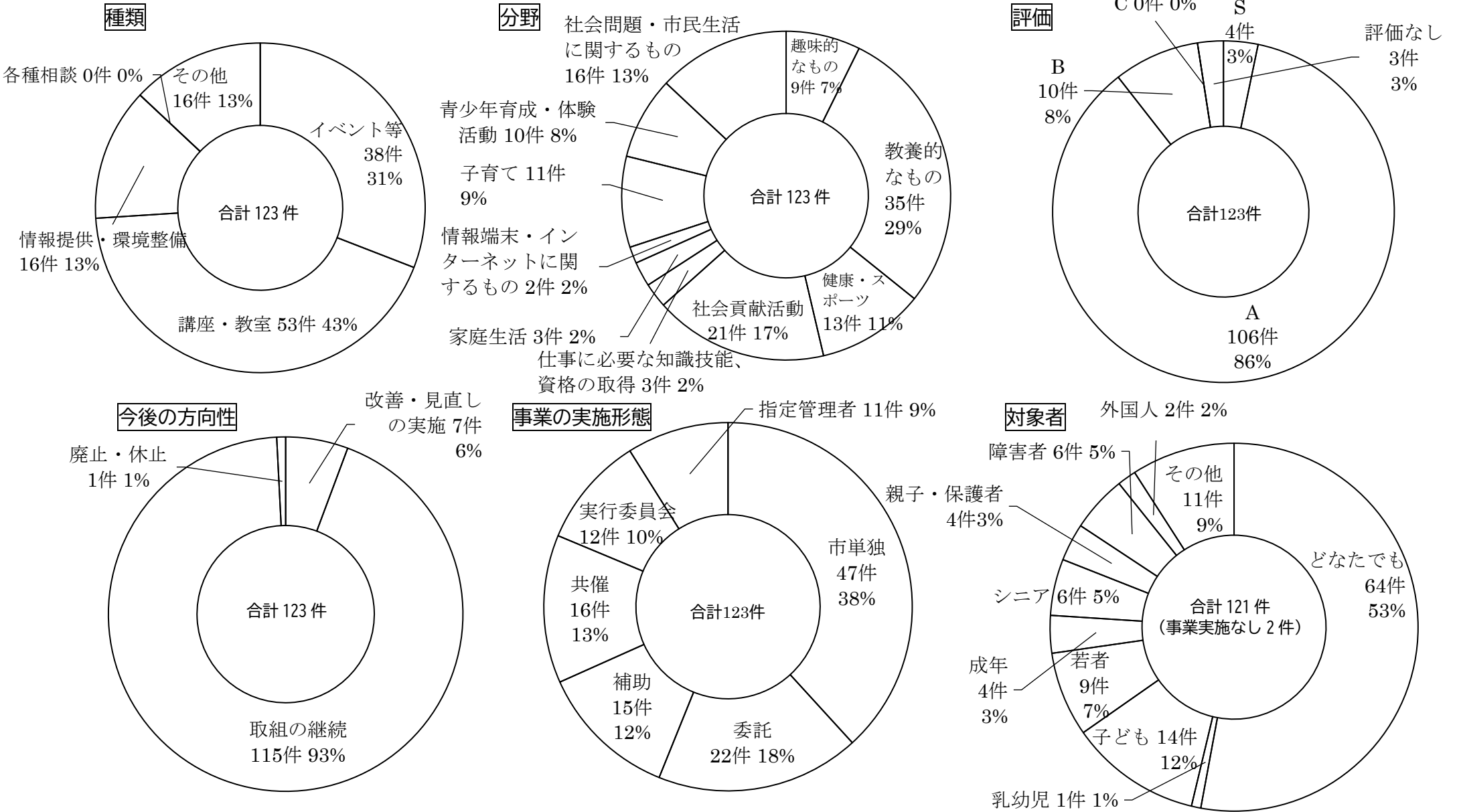
▶デジタル社会において、生涯学習の重要性は一層高まっている。スマートフォンの普及に伴い、情報通信技術は急速に進化し、SNS や生成 AI などが市民の生活、対人関係や社会の仕組みに大きな影響を与えている。一方で、技術の進展により、情報格差やリテラシー不足といった新たな課題も顕在化している。こうした状況を踏まえ、学校教育や社会教育においては、IT 教育の充実に加え、情報リテラシー、セキュリティ、モラルの習得を促進し、誰もが継続的に学べる環境を整備することが求められる。

▶今後は、SNS を活用した情報発信や、オンデマンド・オンライン学習の導入、デジタルデバイド対策講習の充実などを通じて、誰もが情報社会に対応できる学びの機会を確保していく必要がある。また、地域の担い手不足への対応としては、各生涯学習事業を通じて市民や団体が連携し、市民の主体性や地域への参画意識を高める取り組みを推進することが重要である。

▶人口減少、ライフスタイルや価値観の多様化を踏まえると、事業評価においては参加者数などの量的な指標に加え、「満足度」や「学びの深さ」といった質的な指標を重視することが適切である。また、担当職員視点での参加者の「学びの様子」や、参加者の「アンケート」など、主観的な指標も重要である。令和７年度から八王子市生涯学習プランが改定されたことを契機に、こうした質的・主観的評価指標の導入を進め、より効果的・効率的な事業実施につなげていくことが期待される。

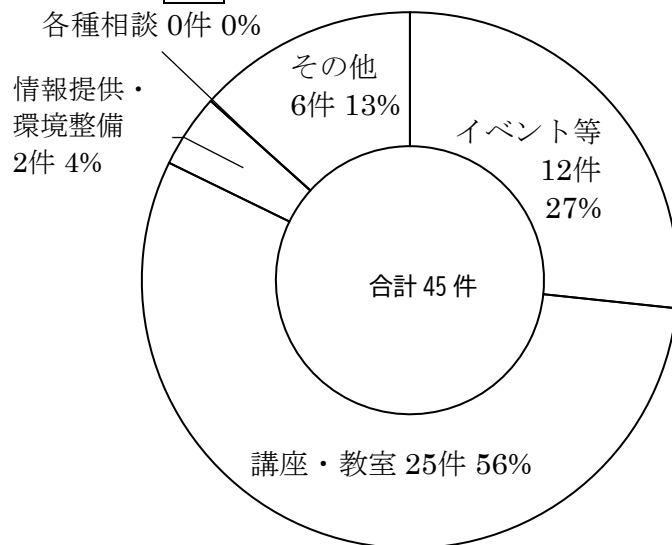
生涯学習関連事業統計グラフ

全体(123 件)

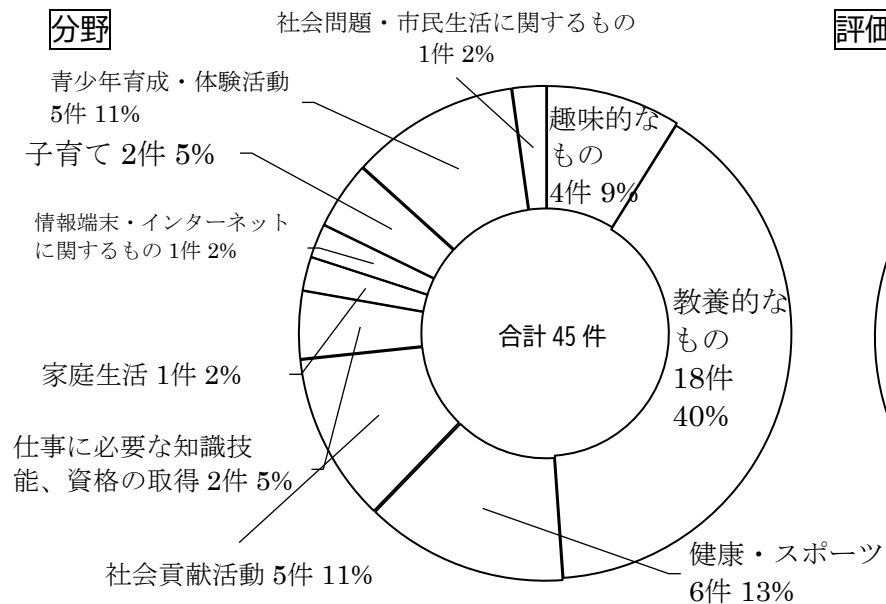


基本施策1 誰もが学べる環境づくり～まなぶ～(45件)

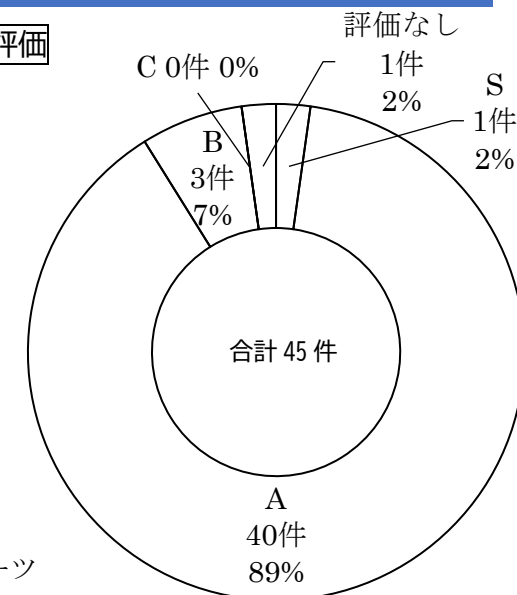
種類



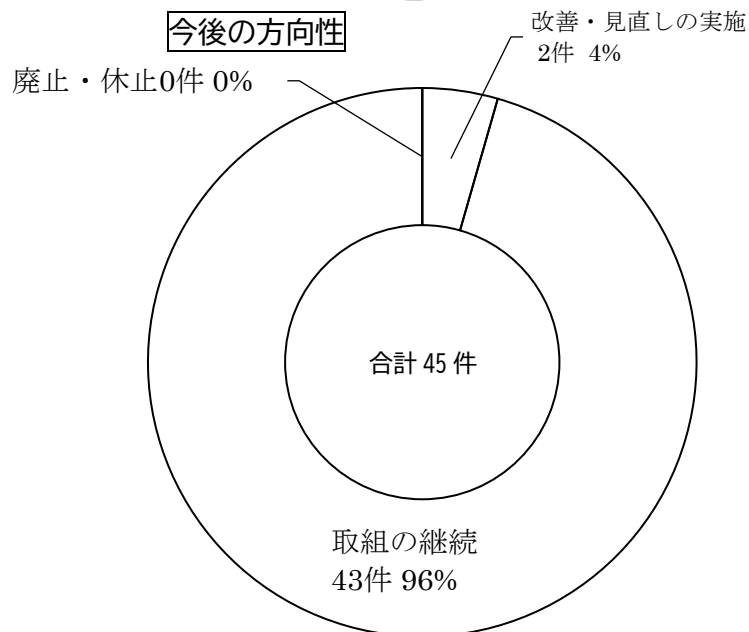
分野



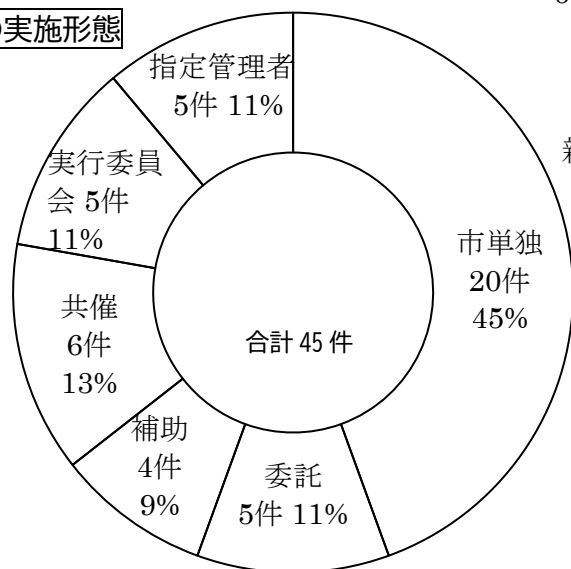
評価



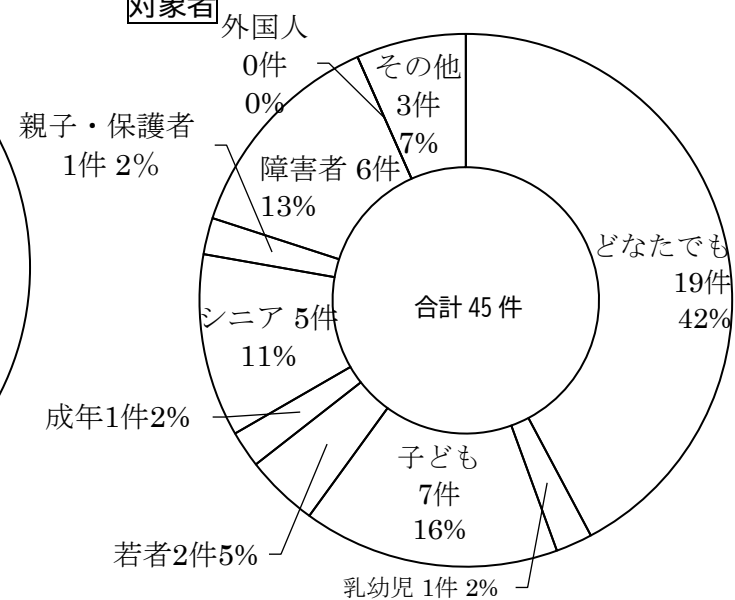
今後の方向性



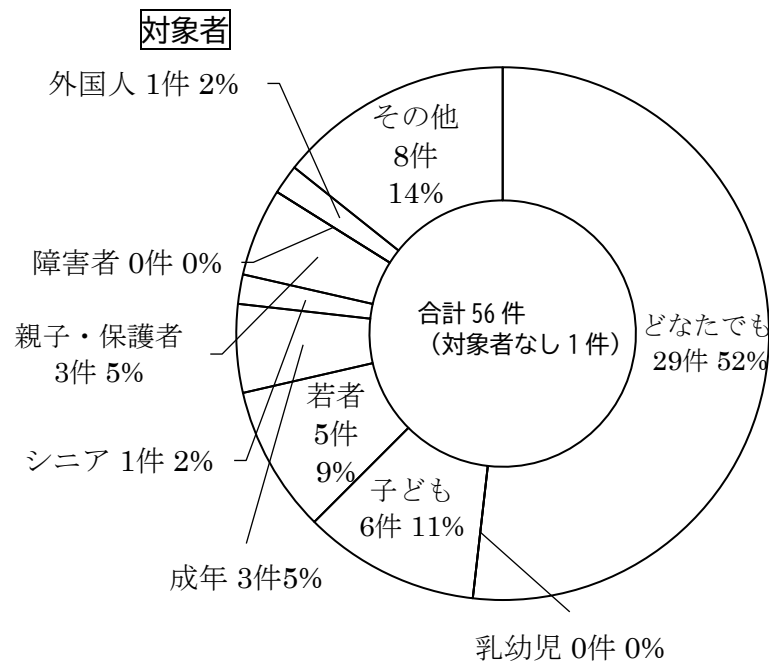
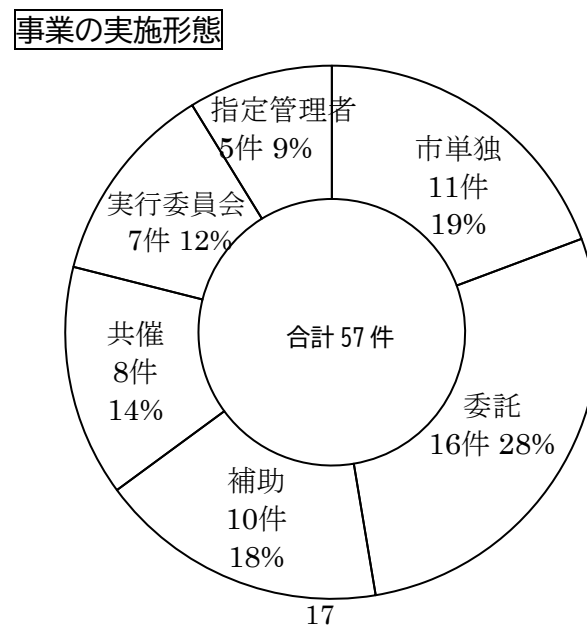
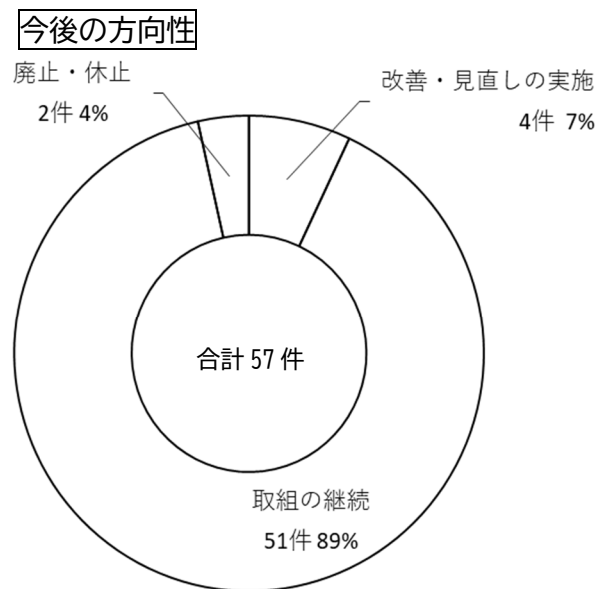
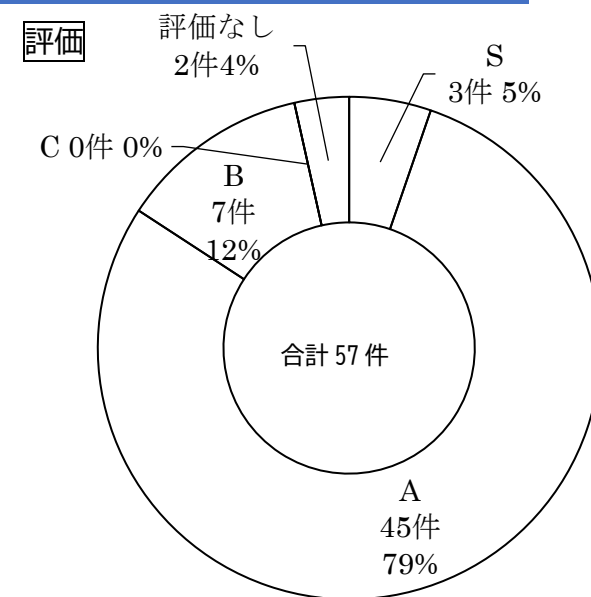
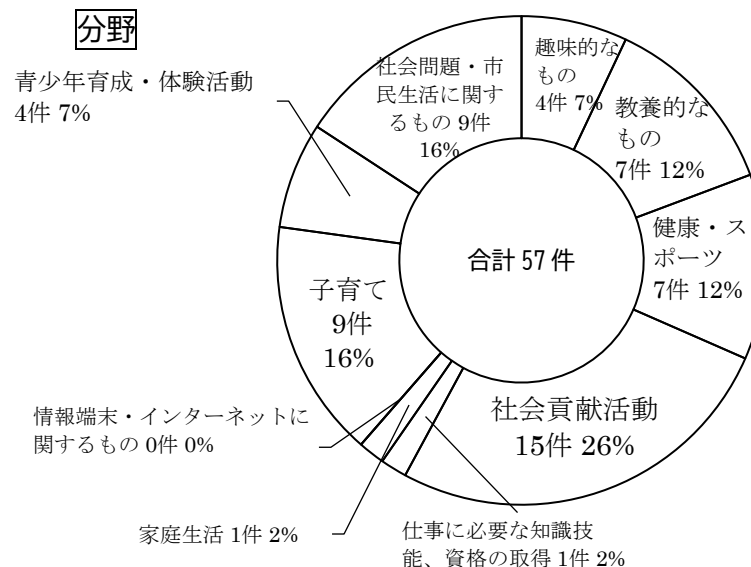
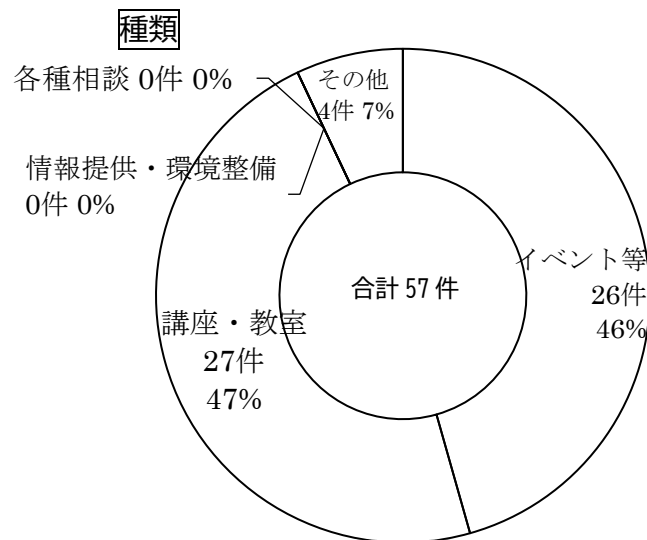
事業の実施形態



対象者

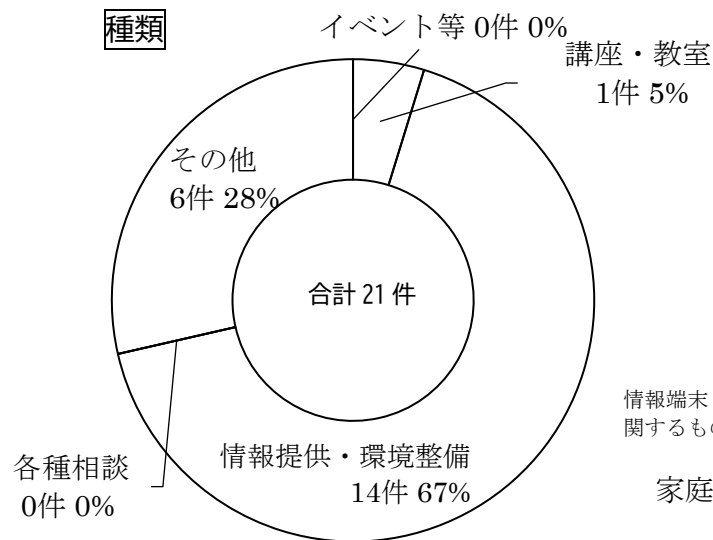


施策2 学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～(57件)

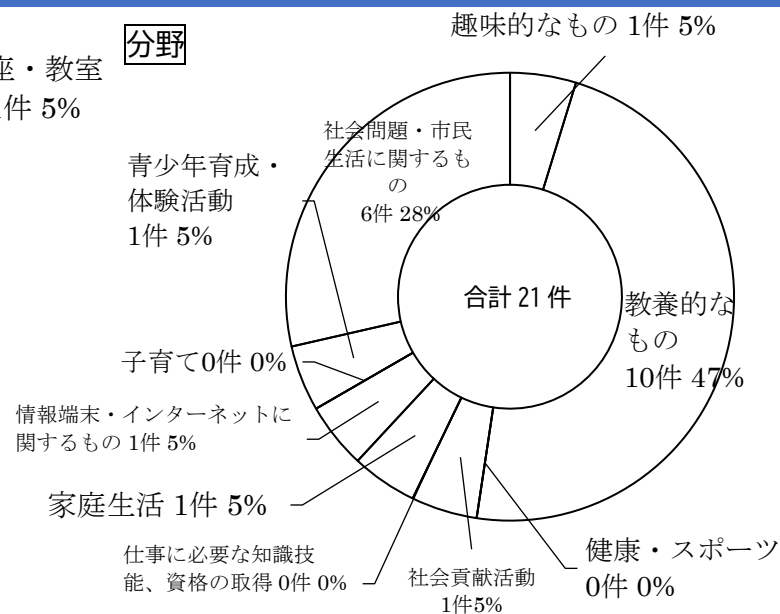


基本施策3 学びを支える基盤づくり(21件)

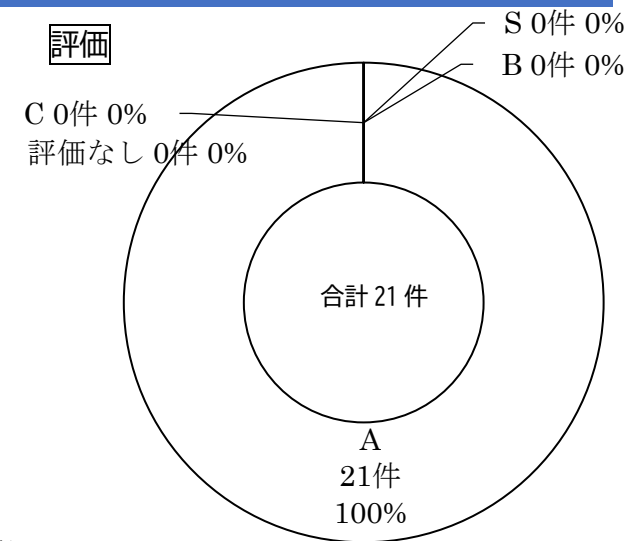
種類



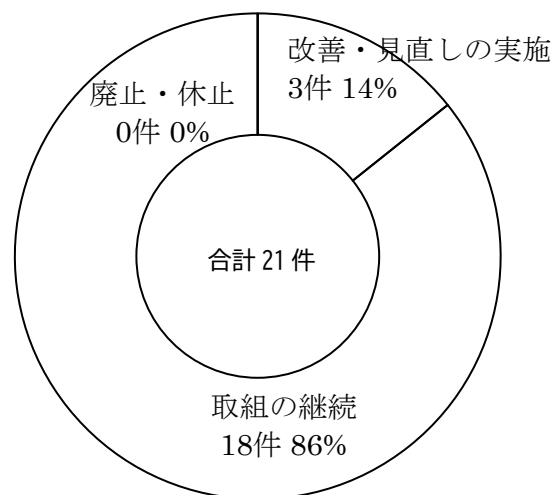
分野



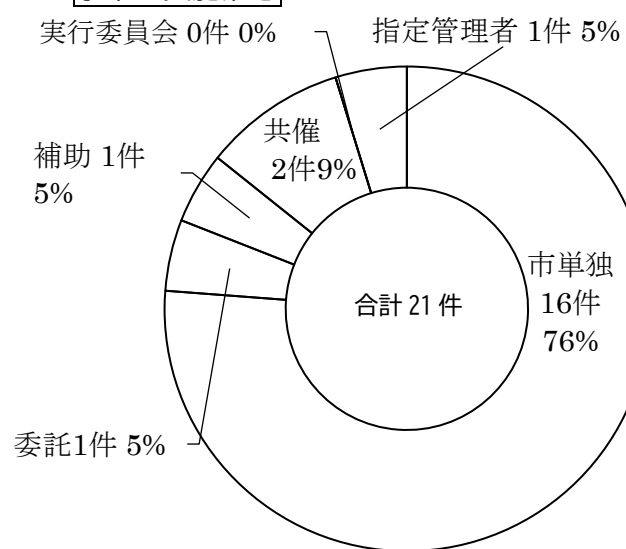
評価



今後の方向性



事業の実施形態



対象者

